

## ギ フ チ ヨ ウ

### — 安居における観察 —

福井市安居中学校 進士 千津子

日本特有の蝶であるギフチョウが、福井市本堂町安居中学校に姿を現わしたのは、私が、39年4月に赴任して間もない4月12日朝である。着任早々の先生に引つぱり出されて、驚く生徒たちの半ば、あつ気に取られた顔も、目の前をひらひら飛び交うチョウにたちまち目が輝いてきた。この日はさばかり、ゆつくり飛ぶようで、網の中へはやつと3羽。この日から、ギフチョウは、生徒たちの採集品になくてはならない種類となつた。

ギフチョウは、福井県内でも可成りの地方に発生するが、福井市内でも、昭和30年私が学生のころ大学の常木勝次教授が、足羽山にその発生を見られ、話題となつた。足羽山には、3月末にその姿を見る事ができるが、安居中学校では、4月になつてからやつとこの蝶の発生を見ている。安院校は、その足羽山より15km西方の山地にあり、福井地方気象台によれば、春先の平均気温は2~3℃も低く、これが発生の大きな原因の一つと考えられる。

発生は、先ずさが早く、学校の周りにも、4月初めの好天の日には、朝方は低く樹間より出て、僅かの距離を移動して道ばたの花の蜜を吸う。それより1週間後に出で来るものに、♀が多くなる。しかし、その頃、どれもがすでに性殖標の形成を見ることから、産卵のための飛行中のところに行けば、多くが捕獲されるときがある。

産卵される食草は、あちこちと狭く分布し、限られた地域にしか産卵されていない。安居地区でのそれを、地図に記入したのが、図1（ギフチョウの食草分布）で、このうち、松谷の方には今のところ、産卵された葉は見受けられず、また、採食された様子もなかつことと、本堂を中心にして、採集されていないことから見ても、この蝶は、本堂を中心に見られ、食草も他に多くは分布していないようである。

本堂のどの辺に産卵されるかという事の調査では、学校を中心とした標高100m以下の地域では、図2（ギフチョウの産卵場所）のようである。学校の前方は田畠や家並びで、後方の山、全体は、松の粗林が多く、その間に竹やぶをはさんでいる。これらのやゝ開けて乾いた半日陰のススキなどの雑草や、灌木のかげの食草の裏に、2~3mm間隙で数個の真珠色の卵が産卵される。

1966年4月28日に、学校の裏山で産卵された葉を採集して来て、1967年4月27日現在までの状態について、観察したことを少し記録してみよう。

なお、飼育は、理科室内で行なわれたので、自然界とは、異なつた結果が得られることと思われる。

表 I ( 個体数の変化 ) のうち 63 匹ふ化した幼虫が 5 月 27 日 28 日に 5 匹死亡しているがこれば途中餌が不足して与えられなかつた日でもしこのとき充分に餌が与えられていれば、幼虫の飼育は可成り容易である。

グラフ I ( ギフテヨウの生長 ) でも、餌の分量は、充分に与えられなかつた日を点線でかき 5 月 11 日までは、僅かの分量のため、また 26 ~ 28 日のような日は餌は与えられなかつたものとして表わしてある。このグラフでは、表 I に示した個体数の変動を無視して、全生在個体が前日に与えられた分量から、次の日に残した量を、差引きして、1 日どれだけを採食したかを、棒グラフにして表わしたものである。24 日まではまた、31 日からは充分与えられた餌をとつており、一応採食の頂土は、ふ化後、2 週間目から 10 日間ほどまでと考えてよいだろう。6 月 3 日には、蛹化しはじめた個体がいるが、幼虫は、その 2 ~ 3 日前になるとあまり採食しないようになる。

フ化から蛹化までの体長変化は、前半は急激に増加し、グラフ中の X 印では 脱皮の期間が見られ、この時を境にして大きく成長に変化があり、階段状の生長曲線を描くことになる。体長と体重は、次第に、蛹になるまで増加の傾向をたどるが 餌の採食と相關関係が認められる。

体幅は、15 日より 22 日まで、減少しているが、体長はどんどん増加していることから、全体見た目には、スマートになつて来る。蛹になりはじめると、体幅は減少しはじめ、ころころと横に太くなつてくる。

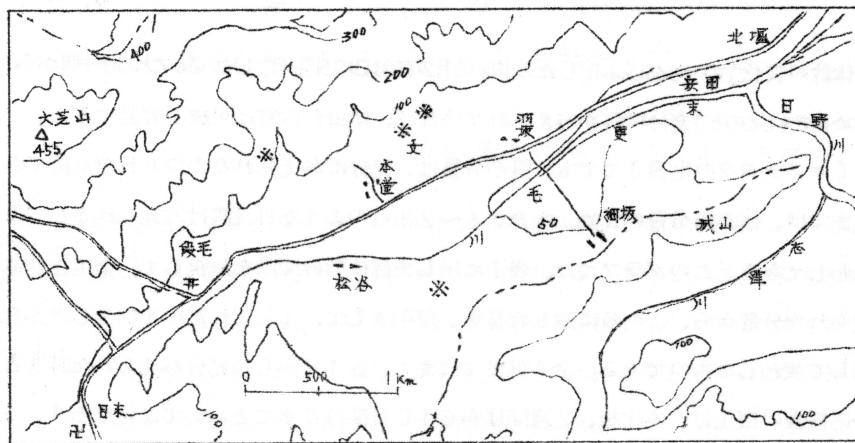
幼虫が、蛹化するときには、盛んに糸を出して幼虫の姿のまま、自分のからだを支えるが、この支えおわつたときと、羽化の前とを比較すると、表 II ( 蛹化と羽化前の比較 ) のようになる。これによつて、体長は減少すなわち短かく縮んでも 9 ヶ月間の期間に体重には変化が見られない。

自然界ではもつと厳しい生育条件下にあると思われることゝ、食草の分布が、1 株ずつ相當に離れて生育していることから考えて、大きい株に産卵された卵のみがそれも 1 株に 2 ~ 3 匹程度生育するに過ぎないギフテヨウであると思えば、今私、羽化させたヨウガ又、安居の山野を飛んでくれる事を頭に描いて、報告の一文に致します。

おわりに、会員でもない私に、記載をおすすめ下さいました 伊藤長右エ門館長、国見中学校長の荒川久兵衛先生に、御礼申し上げます。

1967 年 3 月 28 日

図I [食草の分布]



図II [ギフチョウの産卵場所]

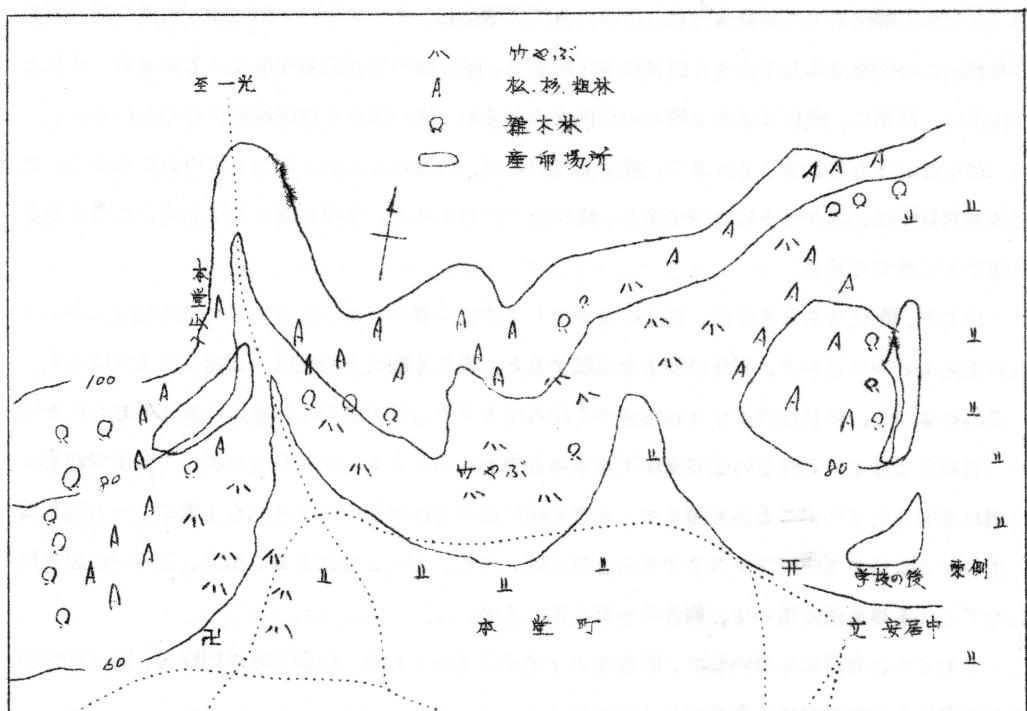


表 I 個体数の変化

年月日	項	個体数	生存数
1966 4. 28	採卵	72 個	72 個
5. 2	ふ化	63 匹	63 匹
15	死亡	2	61
16	"	3	58
17	"	1	57
21	"	2	55
23	"	1	54
25	"	1	53
27	"	( 2 )	51
28	"	( 3 )	48
6. 3	蛹化	1	48
4	"	3	48
5	"	5	48
5	死亡	1	47
10	蛹化	41	46
10	死亡	6	41
1967. 3. 19	"	8	33
20	羽化	1	33
27	"	9	33
27	死亡	1	32

表 II [蛹化と羽化前の比較]

	蛹化直前	羽化前 1 週間
体長	20.8 mm	16.3 mm
体幅	6.0 mm	6.0 mm
体重	100 mg	130 mg

グラフ I [ギフチョウの生長]

